



HeForShe

ジェンダー平等に 向けてのプロジェクト

UN Women (国連女性機関)



目次

| | |
|----------------------------|----|
| UN Womenからのメッセージ | 02 |
| プロジェクト概要 | 02 |
| UN Womenの取組 | 03 |
| 株式会社資生堂の取組 | 05 |
| ワークショップ | 07 |
| イベント - Generation Zからの提言 - | 09 |
| プロジェクト成果 | 11 |
| ワークショップ参加校一覧 | 13 |
| UN Womenについて | 14 |



UN Women からのメッセージ

株式会社資生堂のご支援のもとUN Women(国連女性機関)が実施している『日本の若年層におけるジェンダー平等意識向上のための啓発事業』は今年で3年目を迎えました。本事業を通して、UN Womenは多くの日本の若者にジェンダー課題について考える場を提供してきました。このような機会を提供して下さった株式会社資生堂の皆様には厚く御礼を申し上げます。

2020年は、女性の権利実現と地位向上のための画期的な国際的基準となった北京宣言及び行動綱領の採択から25周年を迎える記念すべき年です。

UN Womenはこの節目の年に「Generation Equality - 平等を目指す全ての世代」キャンペーンを立ち上げ、ジェンダー平等への取組を加速させます。

今回、『日本の若年層におけるジェンダー平等意識向上のための啓発事業』には多くの学生が参加し、議論を深めてくれました。ぜひこの議論を一度きりにせず、継続的なアクションに繋げてもらえることを期待しています。「Generation Equality - 平等を目指す全ての世代」の主役は皆さんのような若者です。ジェンダー平等な社会を達成するため、一緒に立ち上がりましょう。



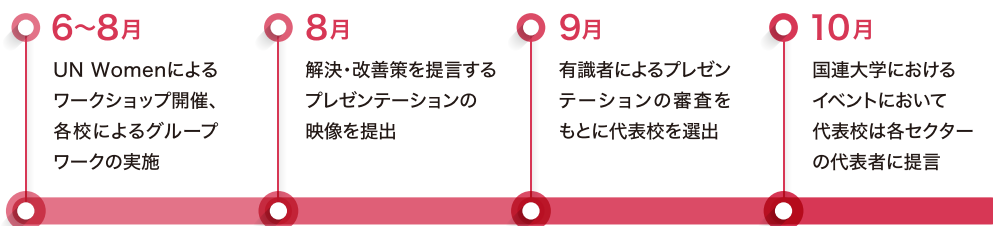
UN Women日本事務所
所長 石川 雅恵

プロジェクト概要

UN Womenは日本における若者のジェンダー平等の意識向上や女性のエンパワーメントを目的としたプロジェクトを2017年より実施しています。3年目となる2019年は、過去の参加校から新規の学校まで、全国33の高等学校、計約700名もの学生がプロジェクトに参加しました。

学生はワークショップやグループワークを通じて各自が関心のあるテーマをジェンダー及び持続可能な開発目標(SDGs)の視点から研究、議論し、解決・改善策及び高校生の立場からできることを提言しました。

2019年のプロジェクトの流れ



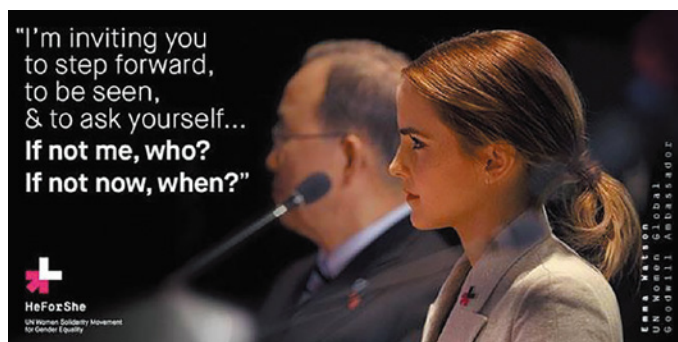


HeForShe

UN Womenによる、ジェンダー平等のための連帯運動

ジェンダー平等への取組は、かつては、女性だけによる女性のための取組として認識されていました。しかし、女性や女兒が直面している不平等や差別をなくすためには、男性を含めすべての人々が関わらなければいけません。

そのような認識のもと、HeForShe(ヒーフォーシー)の立ち上げが2014年に潘基文国連事務総長(当時)とエマ・ワトソン UN Women親善大使により発表されました。それ以来、各国首脳やCEO、世界的な著名人を含め世界中の人々が参加し、2020年1月現在、世界210万人以上(日本でも3万7千人以上)がHeForSheに賛同、そしてアクションを起こしています。



「私はみなさんを一步前へと誘います。声をあげるために。そして、みなさんが『私でなければ...誰が?』『今でなければ...いつ?』と問いかねられるように。」

エマ・ワトソン UN Women親善大使

HeForShe IMPACT 10×10×10 (インパクト・テン・バイ・テン・バイ・テン)

世界中から選ばれたインパクト・チャンピオン(各国首脳10名、グローバル企業のCEO10名および大学の学長10名)が、政府・企業・大学において、トップからジェンダー平等に向けて変革を促すプログラムです。



HeForShe
インパクト・チャンピオン 

安倍 晋三 内閣総理大臣



HeForShe
インパクト・チャンピオン 

名古屋大学 松尾清一 総長

持続的な 開発目標 (SDGs) とジェンダー平等



ジェンダー平等はSDGs達成の鍵

2015年の国連サミットで採択された持続可能な開発目標 (SDGs) は、2030年を到達期日とした「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際目標です。このうち、UN Womenは **目標5「ジェンダー平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る」**に重点を置いて取り組んでいます。女性は、SDGsのすべての分野において非常に重要な役割を担っており、多くの目標がジェンダーの平等と女性のエンパワーメントを目的、および解決策の一部と捉えています。つまり、真のジェンダー平等を達成するためには、目標5の達成に向けて取り組むと同時に、SDGsのその他の目標においても、女性の問題がいかに関係しているか、また女性がどのようにして各目標達成の鍵となっているのかについても考える必要があります。

例えば・・・

1
貧困をなくそう

目標1
あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

貧しい女性ほど景気悪化による損失を補う能力や貯蓄を持ち合わせていません。また、貧しい女児ほど児童婚の対象となることが多く、ハイリスクな妊娠によって命の危険にさらされています。

7
エネルギーもみんなに
そしてクリーンに

目標7
都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする

都市の公共空間において女性や女児であることで暴行や嫌がらせを受けることがあります。また、ケア労働を担うことの多い女性は、例えば、子どもを病院に連れていく際、性暴力等の危険があることからバスを使わず、重篤な障害や死という結果を子どもにもたらしてしまうこともあります。

11
住み続けられるまちづくりを

目標11
すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

近代的な資源が利用できないと、女性は料理や家屋用の燃料の採取に毎日何時間も費やさなければなりません。木や家畜糞を燃やすような原始的なストーブから出る煙によって、室内の空気汚染による健康状態の悪化に苦しむ人も多くいます。

13
気候変動に
具体的な対策を

目標13
気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策をとる

気候変動の影響を最も強く受ける人々の多くは、貧困女性です。彼女たちにとってその影響は目に見える形で日常の生活に現れています。食糧、水、燃料などの確保や、穀物育成に充てる時間がますます長くなっており、災害時に亡くなる可能性は女性がかかり高くなっています。

SHISEIDO

資生堂は1872年に東京・銀座の地で創業したビューティーカンパニーです。現在約120の国と地域で、約46000人、約80の国籍の社員が在籍し事業を展開しています。

「SHISEIDO」「マキアージュ」「シーブリーズ」「TSUBAKI」などスキンケアやメーキャップアイテムから日用品まで様々なブランドを展開し、お客さまに美しさを提供しています。

資生堂の企業理念

BEAUTY INNOVATIONS FOR A BETTER WORLD

ビューティーイノベーションでよりよい世界を

企業として成長するだけでなく、本業であるビューティービジネスそのもので社会課題の解決や、人々が幸せになるサステナブルな社会の実現を目指しています。美でこの世界をよりよくするためにイノベーションをおこし続けていくことが私たちの責任であり、使命です。

そして、さまざまな社会課題があるなか、SDGs 5「ジェンダー平等」、女性のエンパワーメントを注力する課題の1つに選定し活動を推進しています。

その背景には1872年の創業当時から創業者が女性の意見を活かし、積極的に女性を雇用し資生堂の基礎を作り上げてきたという歴史があります。



「見よ。欧米諸国にありては女子もまた男子と等しく職務に従事し自らの生活の困難に打ち勝つにあらずや。我が国においても早晩、女子を立たしむるに至るべきや明にして、我が社が、率先して女子を採用するもこの趣旨に他ならざるなり」



～創業者 福原有信～

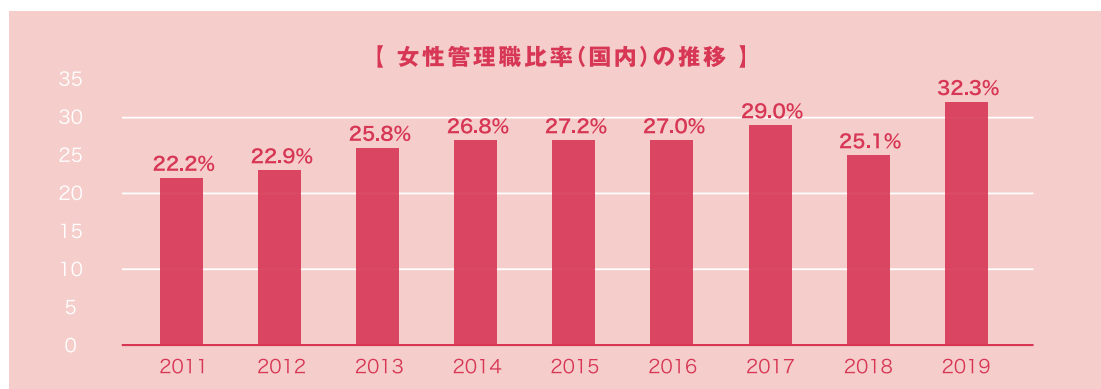
ジェンダー平等に向けた活動



女性管理職育成研修の様子

創業者の想いを受け継ぎ、資生堂は1990年代以降、国の法整備に先駆けて育児休業や介護休業など、さまざまな制度を導入し、女性社員が結婚・出産、または介護などのライフステージの転換期においても継続して仕事を継続できるよう環境を整備してきました。

さらに次のステージとして女性も男性も全ての人が等しく機会を掴み主体的にキャリア構築しながら活躍するための風土を醸成してきました。その結果、国内女性社員の管理職比率は2019年に30%を達成し、2020年には40%まで引き上げる計画となっています。



そしてこれまで培ってきた知見を社内にとどめず、社会に還元し、ジェンダー平等な社会の実現に貢献するため、2017年からUN Women(国連女性機関)と連携し、社会に向けてジェンダー平等実現に向けた活動を開始しました。特にジェンダー間の格差が根強く残る日本において、ジェンダー平等を実現するために、高校生に向けたジェンダー平等啓発ワークショップを推進しています。

性別役割分担意識などの固定観念を払拭し、性別に関係なく一人ひとりが自分らしく生きる社会を創るためには何が必要か、このプロジェクトを通じて未来のリーダーである学生のみなさんに主体的に考えてほしいと願っています。

ワーク
ショップ

ジェンダーの視点 から見るSDGs

ワークショップでは、ジェンダーの定義やジェンダー平等に向けた取組について学んだのち、
関心のある世界のジェンダー課題がどうSDGsに関連しているかについてディスカッションをしました。



ジェンダー
平等って?



どんな
ジェンダー課題
があるの？

自分たちに
何ができる？

Generation Z からの提言

2019年10月6日
国連大学
ウ・タント国際会議場

未来を担う若い世代から日本社会を動かしている各セクターの代表者に向けて提言を行う「第3回 HeForShe すべての人が輝く社会を目指して～Generation Zからの提言～」が、UN Womenと株式会社資生堂の共催、外務省の後援のもと開催されました。

UN Women 戦略パートナーシップ局長 ダン・シーモアによる開会挨拶の後、京都産業大学教授・京都大学名誉教授 伊藤公雄氏、NPO法人 Gender Action Platform理事 大崎麻子氏、エコノミスト 是枝俊悟氏によるパネルディスカッションが行われた他、内閣府男女共同参画局長 池永肇恵氏のスピーチも行われました。

そして、8つの高校の学生グループが、約230名の来場者に対してジェンダー平等に向けた解決策の発表を行いました。問題状況の把握のために学校内外におけるデスク・リサーチやアンケートをしっかりと行い、解決案を実践に移したケーススタディを紹介するなどハイレベルな発表が数多くなされました。



「Generation Zからの提言」プレゼンテーション

昭和女子大学付属昭和高等学校



「輝かしい未来への道」

名城大学付属高等学校



「私たちが始める、アフリカの女性の社会参加に向けたプロジェクト」

群馬県立館林女子高等学校



「幼児期の遊びからこれからの働くを変える
-男女にとらわれない2030の実現に向けて-」

広島女学院高等学校



「ジェンダー視点で企業を選ぼう」

開成高等学校



「ジェンダー不平等は自分ごと?」

光ヶ丘女子高等学校



「『竹』×SDGsでジェンダー課題の解決をめざす! ~ウガンダを例に~」

愛知県立旭丘高等学校



「ワタシ、誰と結婚したい?
-上昇婚志向とジェンダー平等-」

立命館守山高等学校



「絵本を通してジェンダー意識を改善する」

(発表順)

プロジェクト
成果

ワークショップ に参加して

世界ではジェンダー平等が進んでいるのに対して、日本はジェンダー・ギャップ指数のランキングの下から数えたほうが早いということに驚きました。

男は外、女は家という固定概念は捨て、自由に働きやすい社会の方が良いと思いました。自分の人生は自分で決める大切さを改めて知りました。

ジェンダー平等について、社会での女性の地位や、暴力問題だと思っていましたが、女性だけでなく、男性も対象であり、かつ世界に存在する様々な問題がジェンダー平等と関わりを持っているということを知ることができました。

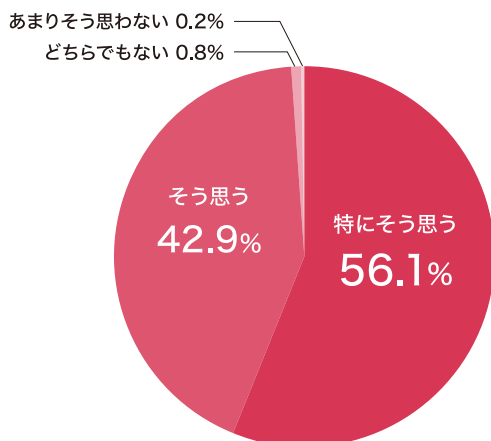
女性だけでなく男性も意識を変えるべきだと感じることができました。

ワークショップの話し合いを通じて、自分の身近なニュースがジェンダーと意外なところにつながっていたり、幅が広がっていく事を発見し、じっくり考える必要性があるのだと思いました。

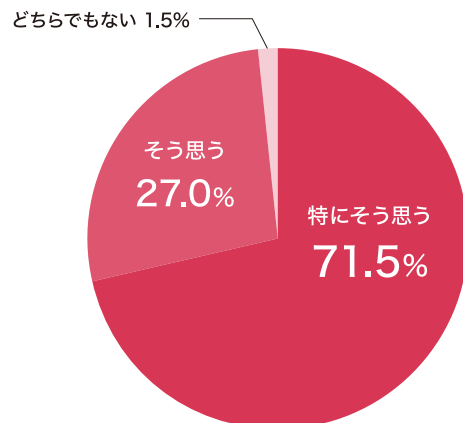
貧困などの世界的な問題におけるジェンダー平等の重要性を感じつつも、これまで何も行動できずにいました。しかし、今日のお話を聞いて、高校生の私にできることはたくさんあると知りました。

資生堂がこんなに社会貢献活動に取り組んでいる事を知って驚きました。たとえ企業でも、様々な世界的問題の解決に取り組めるという事を知りました。

■ ワークショップに参加してジェンダー平等についての意識が深まった



■ 世界の問題に対してジェンダーの視点を持つ重要性が大事だと分かった



2019年度参加者アンケートより

性別にかかわらず自分のやりたいことを選択できることが当たり前だと思っていましたが、ワークショップを通じて自分に与えてもらった環境が当たり前ではないと感じました。

資生堂でSTEM(科学・技術・工学・数学分野)を支援する活動があると聞き、私は将来理系に進みたいと思っていたので、私たちの理系女子の未来がサポートされていると感じ、安心しました。

ジェンダーに関する問題について、高校生の私にもできることをたくさん見つけられたので、これから行動に移したいと思います。

世界では私と同じ年でも教育を受けられない人がおり、そのせいで職にも就くことができないことに対し、同じ女性として私にできないことがないかより深く考えたいと思いました。

ジェンダー差別は開発途上国における問題という意識が強かったですが、日本にもあまり取り上げられないだけで見えずらい差別が沢山存在していることを改めて認識させられました。

グループでの話し合いの際、下級生の女子が自分にはない意見を持っていて、年下だろうと女性だろうと意見に耳を傾けることはとても大事だと改めて思いました。

資生堂では社員の約80%を女性が占めていることにまず驚きました。あらゆる方面の企業が資生堂のように女性を多く採用してくれたいなと思いました。

SDGsの目標全てにジェンダーが関わっているという事がよく分かりました。

私はワークショップに参加する前、日本の企業はジェンダー平等を意識しておらず、まだまだ女性の社会進出が進んでいないと思っていました。しかし資生堂の話聞き、少しずつではあっても、変わってきている企業、大々的に取り組みを進めている企業があることに気付いて良かったです。

ワークショップ・イベント 参加後の活動例



イベント「Generation Zからの提言」において、ウガンダにおける女子に対する教育へのアクセスおよび環境問題を解決するため竹の繊維による生理用品を提言した光ヶ丘女子高等学校。イベント後も精力的に活動を続け、様々な展開が起きています。

同イベントのメディア記事を読んだ JICAウガンダ事務所の方から同様の取組をしている現地の活動家を紹介いただき、英語でスカイプ交流を行っています。また、関連企業にアプローチをし連絡を続けている他、地元のコミュニティFM番組にも生出演。

更に、卒業する3年生たちは新たに団体を立ち上げ、実際の商品開発と普及に向けて活動を継続・発展させていくことも決まりました。



【 ワークショップ参加校一覧 】

2019年は日本全国から33校の高等学校が参加しました。

- + 愛知県立旭丘高等学校
- + 愛知県立刈谷北高等学校
- + 愛知県立千種高等学校
- + 郁文館グローバル高等学校
- + 海城中学高等学校
- + 開成高等学校
- + 群馬県立大泉高等学校
- + 群馬県立館林女子高等学校
- + 晃華学園高等学校
- + 國學院大學久我山高等学校
- + 金光学園中学・高等学校
- + 埼玉県立浦和第一女子高校
- + 札幌聖心女子学院高等学校
- + 札幌創成高等学校
- + 札幌龍谷学園高等学校
- + 昭和女子大学附属昭和高等学校
- + 洗足学園中学高等学校
- + 田園調布学園高等部
- + 東京都立杉並総合高校
- + 東洋女子高等学校
- + 常盤木学園高等学校
- + 鳥取県立鳥取西高等学校
- + 名古屋大学教育学部附属中・高等学校
- + ノートルダム女学院中学高等学校
- + ノートルダム清心女子高等学校
- + 光ヶ丘女子高等学校
- + 広島女学院高等学校
- + 前橋市立前橋高等学校
- + 武蔵野大学附属千代田高等学院
- + 名城大学附属高等学校
- + 横浜雙葉高等学校
- + 立教女学院高等学校
- + 立命館守山高等学校

(五十音順)

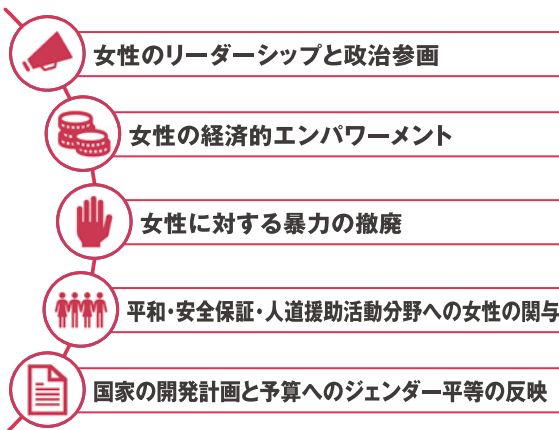
UN Women について

UN Women (国連女性機関) とは

UN Womenはジェンダー平等と女性のエンパワメントのための国連機関です。

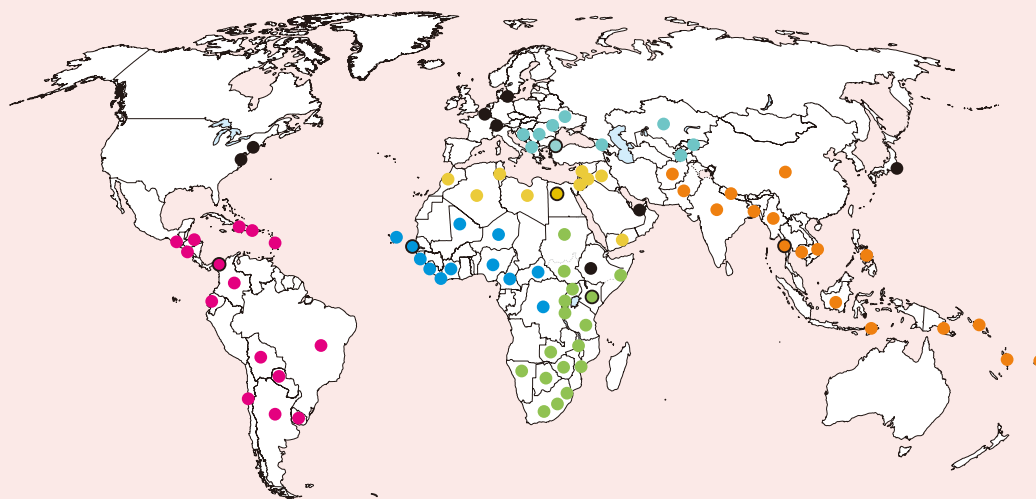
国連加盟国がジェンダー平等の達成をめざし、国際基準を策定する支援をします。また、こうした基準を履行し、世界中の女性と女兒が真に恩恵を受けるための法律、政策、プログラム、サービスなどの企画立案を政府や市民社会と協力して行います。

持続可能な開発目標 (SDGs) のビジョンを女性と女兒にとって現実のものとするために世界全域で活動しています。



世界のUN Women

本部はニューヨークにあり、世界各地に6つの地域事務所、6つの多国事務所、45の国別事務所、32のプログラム事務所、7つのリエゾン・オフィスを展開しています。



UN Women日本事務所

〒112-0003

東京都文京区春日1-16-21 文京シビックセンター1階

ウェブサイト : japan.unwomen.org



HeForShe



【ご支援】

SHISEIDO

